社会科学研70周年記念公開シンポジウム

川崎の産業とくらし

活動成果を地域に還元

社会科学研究所（宮嵜晃臣所長）は、創立70周年記念公開シンポジウム「川崎の産業とくらし―はたらきがい・いきがいあふれる地域へ―」を1月25日、生田キャンパスで開いた。

冒頭、宮嵜所長はシンポジウム開催に当たって「社会科学研究所は研究プロジェクトの一つとして、川崎市の労働とくらしに関し、実態調査を行っている。その成果と社研の活動を地域に還元していきたい」と述べた。

第1部は研究参与の平尾光司さん（元経済学部教授）が「川崎市の産業の歴史」、川崎市経済労働局・産業政策部長の草野静夫さんが「川崎市の新産業政策」、川崎市男女共同参画センター館長の野村幸平さんが「川崎市　地域のくらしと仕事」と題して講演した。

平尾さんは明治期から現代に至るまでの川崎市の産業の成り立ちを時代とともに解き明かした。100年前は一面麦畑が広がっており、麦わら帽子が輸出産業だった。以後、鉄道の整備や火力発電所の建設が進み、近代工業の礎が築かれた。

東京に比べ地価が安く、湾岸エリアであることから石油コンビナートなど一大工場地域として高度経済成長をけん引したが、70年代以降、大気汚染、公害などの環境問題に直面。80年代からは情報産業、イノベーション、環境都市へとシフトし、多様な産業構造を持つようになった。「重化学工業のほか、情報通信、医療、ベンチャーなど新しいビジネススタイルを併せ持つ都市は世界的にも珍しい」と話した。

草野さんは川崎市の産業構造をデータで示し、現在、市が力を入れている産業振興として「中小企業対策」「イノベーション拠点の形成」などを紹介。新川崎地区エリアの新たな取り組みについて解説した。

野村さんは「男女共同参画センター」について紹介。年間100以上実施されている事業の中から、女性の起業やシニア世代の生き方支援、働きやすさやくらしやすさのための事業について、成果とともに語った。

第2部は「はたらきがいといきがいを見いだし創造するために」をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。

司会の永島剛所員（経済学部教授）が「行政の企業支援は伴走型で、ネットワークも整っている」と紹介した。平尾さんも「市の役割は大きい。中小企業と同じ目線で一緒に走ることで効果が上がっており川崎モデルと言われている」と語った。

また、くらしやすさ、生きやすさの面から、昨年12月に「川崎ヘイトスピーチ禁止条例」が可決されたことの意味についても語り合った。

パネルディスカッションでは「川崎モデル」について意見を交わした

IT企業に事業提案

商・鹿住ゼミ　組織改善策を研究

中小企業やベンチャーを研究する商学部・鹿住倫世ゼミは、IT企業を対象に4カ月間、企業研究を行った。その研究成果の発表会が1月20日、生田キャンパスで開かれ、学生たちは組織や業務の改善に向けてさまざまな提案を行った。

対象企業の「株式会社キュービック」（東京都）は2006年創業。企業の広告代理事業、インターネットメディア事業を展開する。学生インターンを多く登用しており、鹿住ゼミの4年次生がキュービック社でインターンシップを行っていることから同社と縁ができた。

2・3年次生25人が4グループに分かれて同社を研究。昨年12月にはキュービック社を訪問、中間報告と社員とのディスカッションを行った。

当日の発表会には、キュービック社の世一英仁代表取締役社長と社員2人が参加。学生の発表を聞き、質問やコメントを出した。

既存事業グループ5人は、市場成長率と市場シェアから同社の現状を分析。サイトのリニューアルを提案した。新規事業開発グループ7人は、学生が懇親会の前に利用する「ゼロ次会」に特化した飲食店を開発する事業を提案した。

組織マネジメントグループ6人は、迅速で安定した事業運営へ、複数の指揮命令系統により組織を管理するマトリックス型組織を新規事業で実施する提案を出した。最後は企業文化グループの7人。「分散している会社の情報を集め、まとめる必要がある」と発表し、紙媒体による社史の製作を提案した。

世一社長は「会社を研究する場合、企業の文化に光を当て、意味を探ることが重要」と語った。

服部優介さん（2年次）は「昨年末の会社訪問で社員から話を聞いたことが今回の発表につながった」と振り返った。鹿住教授は「最後の頑張りで研究が進み発表にこぎつけた。この経験を卒論や就活につなげてほしい」と総括した。

キュービック社の世一社長らの前で発表する鹿住ゼミ生

香川県と就職支援協定

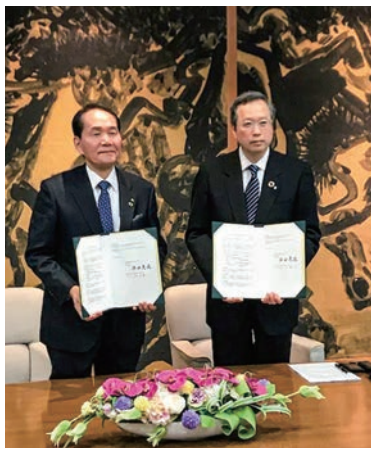
専修大学は1月27日、香川県と就職支援協定を締結した。学生や、ご父母・保護者に県内企業の求人情報やUターン・Iターンの情報を発信し、合同企業説明会などを開催することで、香川県内での就職を望む学生への支援を強化する。

香川県庁で行われた締結式には香川県の浜田恵造知事と本学の佐々木重人学長が出席した。

浜田知事は「創立140周年を迎える専修大学とさまざまな取り組みをともに進めていけることをうれしく思う。この協定締結を契機として、より一層連携を進めていきたい」と期待を寄せた。

佐々木学長は、「今後働き方は大きく変わると考える。そういった情報も提供し、ともに努力していきたい」と語った。

香川県との協定締結により、本学の就職支援協定締結は35自治体（34府県1市）となった。


協定書を手にする佐々木学長（右）と浜田知事

第2回就職ガイダンス

生田・神田で開催

来春卒業予定の現3年次生の就職活動が本格的にスタートする。3月1日の広報活動解禁前の2月3、4日、第2回就職ガイダンスが生田・神田両キャンパスで開催された。将来、後悔しないために取り組むべきこと、求人情報の探し方、就職活動における注意点、先輩たちの過去の失敗例、後悔する人の共通点などが説明された。

4日、生田キャンパスで行われたガイダンスでは就職課職員が「就職活動が本格化する前から社会との接点を持つこと、内定をゴールと考えずにその後の人生も大まかに考えることが必要」と強調した。

その後、筆記試験対策や面接対策、業界・企業研究などの講座が「就活解禁直前フェア」として開催された。内定者による就職大相談会では、4年次生が後輩の相談に応じた。

内定者の嶋田直樹さん（人間科学4）は、「ほとんどの就活生が不安を感じているようだったが、同時期の自分と比べて準備をしっかり進めている学生が多いと思った。内定が出るタイミングは人それぞれなので、自分のペースを大事にしてほしい」と激励した。

4年次生が就活のヒントを伝えた相談会

「視野を広げ、自分で考える習慣をつけよう」とアドバイスした就職ガイダンス

就職課から

〈3年次生へ〉3月1日まであと半月となりました。準備は万全ですか？　2月から3月にかけての業界・企業研究は、皆さんがエントリーする企業を定めるうえで非常に重要です。業界・企業の情報を数多く入手するためにも、2月上旬から開催している「カイシャ知っ得セミナー」への参加をお勧めします。

また、3月9日（月）から17日（火）まで（土・日を除く7日間）、サテライトキャンパスで「学内企業説明会」を開催します。企業選択の幅を広げるチャンスです。第2回就職ガイダンスで配布した参加企業一覧を確認のうえ参加してください。

〈4年次生へ〉2月27日（木）、3月10日（火）、18日（水）に、生田キャンパスにて「求人マッチングフェア」を開催します。入退場自由、私服可です。イベントへの参加だけでなく、就職活動を継続している方は、ぜひ一度就職課に来てください。採用活動継続中の企業はまだあります。諦めずに行動しましょう。

訃報

藤本克己氏（ふじもと・かつみ）元法学部教授

2019年12月11日、103歳で死去。1973年から87年まで在職。専門は生理学。